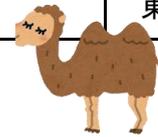


● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
議 会		
「生きた」議員提案条例をつくろう	津軽石昭彦	第一法規
地 方 自 治 ・ 地 方 行 政		
まちのファンをつくる 自治体ウェブ発信テキスト	狩野哲也	学芸出版社
働き方改革と自治体職員 —人事評価、ワーク・ライフ・バランス、 非正規職員、AI・ロボティクス	黒田兼一(編著) 小越洋之助(編著)	自治体研究社
全国市町村要覧 令和2年版	市町村要覧編集委員会 (編)	第一法規
ま ち づ くり		
まちの未来を描く！自治体のSDGs	高木超	学陽書房
事例から学ぶ 若者の地域参画成功の決め手	松下啓一	第一法規
防 災 ・ 災 害		
ハザードマップで防災まちづくり —一命を守る防災への挑戦—	片田敏孝	東京法令出版

「和歌山市に砂丘があった!？」



あけましておめでとうございます。今年も一年よろしく願いいたします。

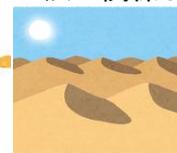
先日、議会図書室に置いている本を読んでいると、昔、和歌山市に砂丘があったと書かれているのを見つけました。その名前は「吹上の浜」です。とても驚き、興味が沸いたので、早速、和歌山市史を調べてみました。

市史によると、平安時代の「中右記」に「白砂の高く積み、遠く山岳を成す、三・四十町ばかり全く草木なく、白雲を踏むが如し」とあり、草木の生えていない綺麗な白い砂の山が、約3~4キロメートル続いていたそうです。例えば、和歌山城を起点にすると、雑賀崎辺りまで砂丘が広がっていたことになります。また、標高は20メートルを越していたとみられ、ビルの6階ぐらいの高さに当たります。驚くほど広範囲に、大きな砂丘があったことが分かります。

ところで、砂丘と言えば、鳥取砂丘が有名ですが、その大きさは南北に2キロメートル、東西に16キロメートル、標高は最高点で92メートルです。鳥取砂丘には私も行ったことがあります。見渡す限り砂で、頂上付近を歩いている人は豆粒のように見えるほどスケールの大きなものでした。和歌山市にあった吹上の浜は、鳥取砂丘ほどではありませんが、当時の人々にとって、とても壮大なものであったと思います。

さて、砂丘とは、風により移動した砂が堆積して形成された丘や堤状の地形のことです。吹上の浜も紀伊水道から吹き込む海風により砂が運ばれ、堆積してできたものだと思います。

そんな吹上の浜ですが、その後、紀の川の氾濫や洪水などにより、大きく連なった姿は失われていったそうです。和歌山市内で高低差があるようなところは、ひょっとしたら、かつての吹上の浜が関係しているのかもしれませんが。



《番外編》 11月号で取りあげた、今年を表す漢字1字が昨年末発表されました。

「密」が選ばれましたが、皆さんの予想は当たりましたか？

※参考:和歌山市史第一巻、日本大百科全書、公益財団法人日本漢字能力検定協会ホームページ